

令和4年度（2022年度）

遠軽地区広域組合温室効果ガス排出量報告書

遠軽地区広域組合

令和4年度（2022年度）遠軽地区広域組合における温室効果ガス排出量について

地球温暖化対策の推進に関する法律に基づき、令和4年度の遠軽地区広域組合における温室効果ガス排出量について、下記のとおり報告します。

1 遠軽地区広域組合における温室効果ガスの排出量

令和4年度の遠軽地区広域組合の事業における温室効果ガスの排出量は、次表のとおりです。

| ガス種類 | 主な発生源 | 令和4年度 排出量 (t-CO ₂) | 地球温暖化係数 |
|---------------------------|--|-----------------------------------|---------|
| 二酸化炭素 (CO ₂) | 自動車等の燃料、電気の使用 一般廃棄物（プラスチック類）の焼却 | 6,932 | 1 |
| メタン (CH ₄) | 自動車の走行 一般廃棄物の焼却（全焼却量） し尿、浄化槽汚泥処理 | 130 | 25 |
| 一酸化二窒素 (N ₂ O) | 自動車の走行 一般廃棄物の焼却（全焼却量） し尿、浄化槽汚泥処理 | 121 | 298 |
| ハイドロフルオロカーボン (HFC) | カーエアコンの冷媒 | 0 | 1,430 |
| パーフルオロカーボン (PFC) | 半導体の洗浄等 | 0 | 7,390 |
| 六フッ化硫黄 (SF ₆) | 電力絶縁用ガス | 0 | 22,800 |
| 三フッ化窒素 | 半導体の製造過程 | 0 | 17,200 |

※地球温暖化係数とは各温室効果ガスの温室効果の強さがその種類によって異なっており、二酸化炭素を（基準）として、各温室効果ガスの温室効果の強さを数値化したものです。

遠軽地区広域組合の事業における地球温暖化に対する影響は、二酸化炭素による影響が最も大きくなっております。

2 温室効果ガス種類別排出量の前年度との比較

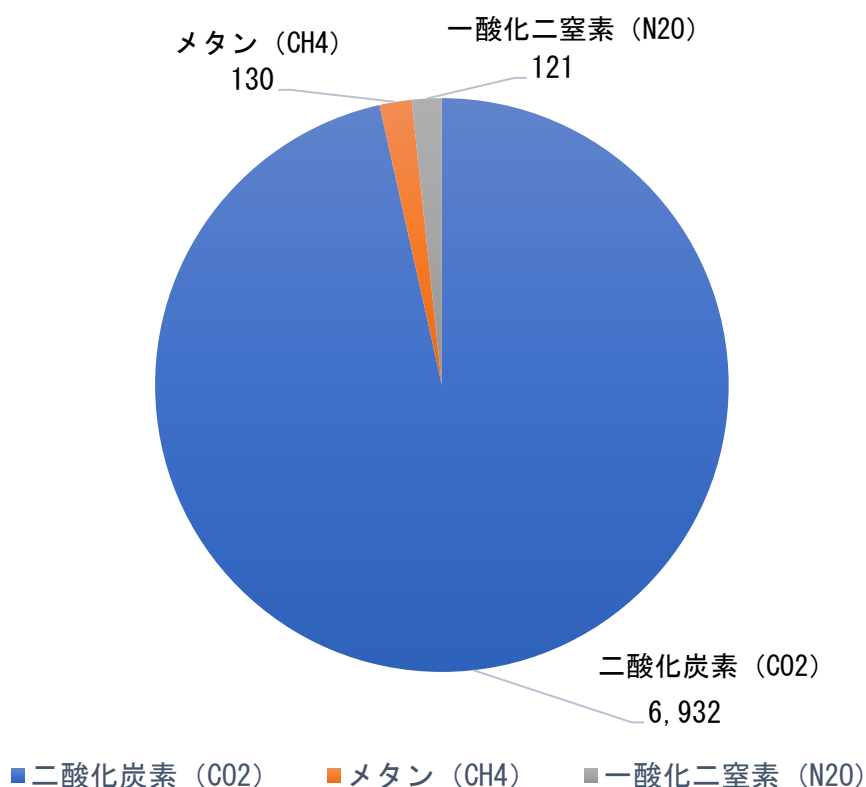
前年度との比較は、次表のとおりです。

| ガス種類 | 令和3年度排出量 (t-CO ₂) | 令和4年度排出量 (t-CO ₂) | 比較増減 |
|---------------------------|----------------------------------|----------------------------------|--------|
| 二酸化炭素 (CO ₂) | 7,931 | 6,932 | -12.6% |
| メタン (CH ₄) | 135 | 130 | -3.7% |
| 一酸化二窒素 (N ₂ O) | 119 | 121 | +1.7% |
| ハイドロフルオロカーボン (HFC) | 0 | 0 | 0% |
| パーフルオロカーボン (PFC) | 0 | 0 | 0% |
| 六フッ化硫黄 (SF ₆) | 0 | 0 | 0% |
| 三フッ化窒素 | 0 | 0 | 0% |
| 計 | 8,185 | 7,183 | -12.2% |

※各区分の数値は端数処理のため、合計が一致しない場合があります。

遠軽地区広域組合における令和4年度の温室効果ガス排出量は、7,183t-CO₂で前年度の8,185t-CO₂と比較すると12.2%減少しています。これは衛生施設課の管理施設であるごみ焼却施設（えんがるクリーンセンター）において廃プラスチック類の焼却量と排出処理係数がともに減少したことが主な要因となっております。

温室効果ガス種類別排出量



3 排出用途別温室効果ガス総排出量

遠軽地区広域組合では主に一般廃棄物の処理焼却作業が温室効果ガスの排出量の67.0%を占めております。次に電気の使用が20.1%、燃料の使用が11.0%となっております。

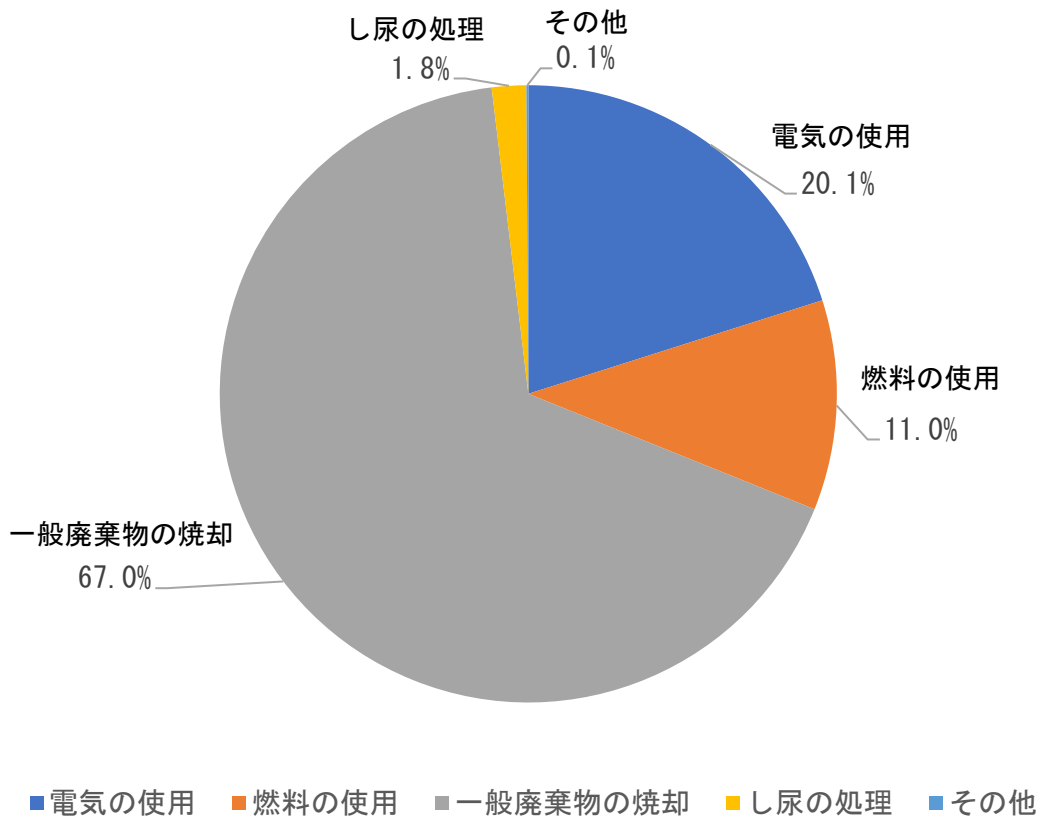
活動用途別の温室効果ガスの排出量は、次表のとおりです。

単位：t-CO₂/年度

| 活動区分 | CO ₂ | CH ₄ | N ₂ O | 令和4年度 合計 | 構成比 |
|----------|-----------------|-----------------|------------------|-------------|--------|
| 電気の使用 | 1,443 | | | 1,443 | 20.1% |
| 燃料の使用 | 795 | | | 795 | 11.0% |
| 一般廃棄物の焼却 | 4,694 | 13 | 108 | 4,815 | 67.0% |
| し尿の処理 | | 117 | 12 | 129 | 1.8% |
| その他 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0.1% |
| 計 | 6,932 | 130 | 121 | 7,183 | 100.0% |

※各区分の数値は端数処理のため、合計が一致しない場合があります。

排出用途別温室効果ガス排出量



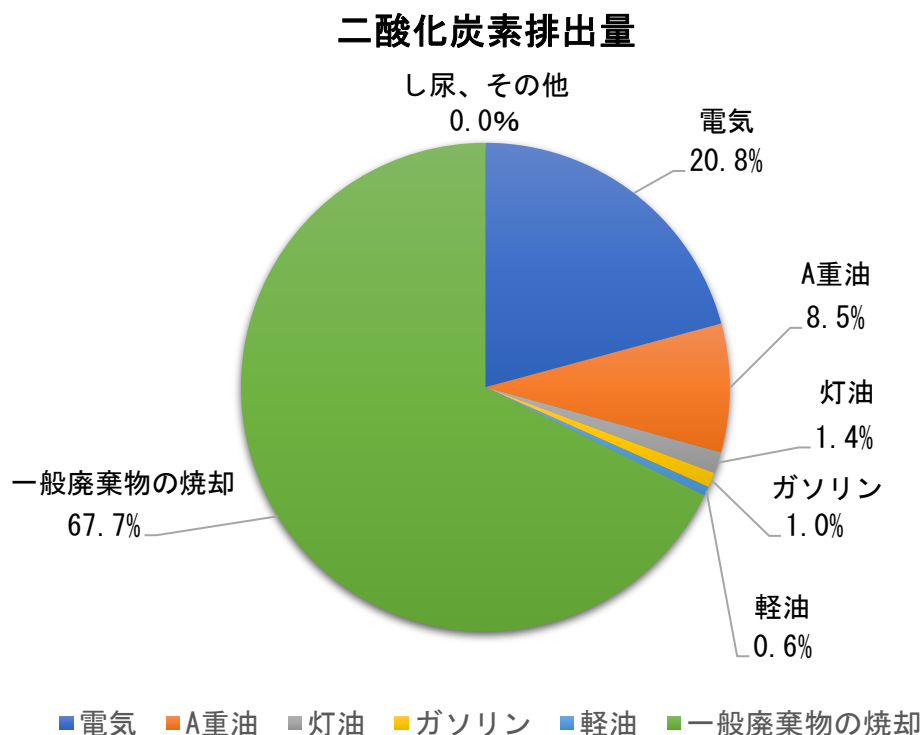
4 燃料種類別二酸化炭素排出量の推移

遠軽地区広域組合の事業における二酸化炭素排出量6,932トンのうち、一般廃棄物の焼却が全体の67.7%と大部分を占めており、その他に電気の使用が20.8%、燃料の使用が11.5%となっており、燃料の区分では重油の使用による温室効果ガスの排出量が最も多く、燃料の使用による二酸化炭素排出量の8.5%を占めています。

単位：t-CO₂/年度

| 区分 | 令和3年度 2021年度 | 令和4年度 2022年度 | 前年比 |
|----------|-----------------|-----------------|--------|
| 電気 | 1,569 | 1,443 | -8.0% |
| A重油 | 550 | 587 | +6.7% |
| 灯油 | 96 | 96 | -0.0% |
| ガソリン | 61 | 65 | +6.6% |
| 軽油 | 45 | 47 | +4.4% |
| 一般廃棄物の焼却 | 5,611 | 4,694 | -16.3% |
| し尿の処理 | 0 | 0 | 0.0% |
| その他 | 0 | 0 | 0.0% |
| 計 | 7,931 | 6,932 | -12.6% |

※各区分の数値は端数処理のため、合計が一致しない場合があります。



5 温室効果ガス排出量の部局別推移

遠軽地区広域組合の令和3年度（2021年度）の温室効果ガス総排出量は8,185 t-CO₂となっており、部局別では衛生施設課が全体の93.1%を占め、消防本部・消防署（出張所を含む。）が6.9%となっています。

また、平成30年1月より稼働をはじめたごみ焼却施設（えんがるクリーンセンター）では一般廃棄物の処理量が増加傾向にありましたが、今年度は主要排出項目の廃プラスチック類の焼却量と排出処理係数がともに減少したことで、温室効果ガスの総排出量が減少し、令和4年度（2022年度）は前年度より1,002 t-CO₂少ない、7,183 t-CO₂となっています。

遠軽地区広域組合の温室効果ガス総排出量のうち、ごみ焼却施設からの排出が84.2%を占めることから、衛生施設課が全体の92.3%を占めているのが現状です。

部局別温室効果ガス排出量は、次表のとおりです。

温室効果ガス排出量の部局別推計

単位：t-CO₂/年度

| 区分 | 令和3年度 2021年度 | 令和4年度 2022年度 | 基準年比 |
|-------------|-----------------|-----------------|--------|
| 消防本部・消防署警備課 | 77 | 78 | +1.3% |
| 消防署生田原出張所 | 72 | 86 | +19.4% |
| 消防署丸瀬布出張所 | 64 | 51 | -20.3% |
| 消防署白滝出張所 | 71 | 64 | -9.8% |
| 消防署上湧別出張所 | 63 | 65 | +3.1% |
| 消防署湧別出張所 | 122 | 101 | -17.2% |
| 消防署佐呂間出張所 | 99 | 88 | +11.1% |
| 衛生施設課 | 7,616 | 6,650 | -12.7% |
| し尿処理施設 | 711 | 665 | -6.5% |
| リサイクル施設 | 26 | 25 | -3.8% |
| ごみ焼却施設 | 6,879 | 5,961 | -13.3% |
| 計 | 8,185 | 7,183 | -12.2% |

※各区分の数値は端数処理のため、合計が一致しない場合があります。

温室効果ガス排出量の部局別推計

